

大牟田市立橋中学校

1 本校のESDの特徴

大牟田市は、高齢化率の高い都市であり、「人が真ん中のまちづくり」と題して、市を挙げて様々な取組を行っている。このような状況をふまえ、本年度、ユネスコスクール全国大会において、福祉に関わる公開授業を行った。授業では、国連ハビタットの職員をゲストティーチャーとして迎えて、国内のユネスコスクール(静岡県伊豆市立天城中学校、福井県勝山市立勝山中部中学校、愛媛県新居浜市立北部中学校)との交流の様子を紹介し、少子高齢化の問題が、本市のみならず、わが国の様々な地域が抱える普遍的な課題であることをとらえた。

また、本校の校区では、まちづくり協議会とタイアップした吉野小学校の「桜プロジェクト」をベースとして、校区の方々と学校との協働がさかんに行われており、本校も「総合的な学習の時間」を中心に特別活動や教科の学習において、持続可能な社会の構築に向けて様々な取組を行っている。特に、地域の実態をふまえ、「福祉教育」「キャリア教育」の領域を中心とした学びをすすめている。

第1学年では、「進路学習Ⅰ」として、地域の人に学び(職業人による講話等)、「環境・エネルギー学習」として、自然とふれあう体験やクリーンエネルギーを核とした学習を行っている。第2学年では、「進路学習Ⅱ」として、地域の人に学び(職場体験を核とした学習)、また「世界遺産学習」を行っている。第3学年では、「福祉学習Ⅱ」として、地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育体験(幼児とのふれ合い体験)、「進路学習Ⅲ」として、マナー講座などを実施している。その後、「ひととまちの100年物語」として、学習成果をまとめた。また、SDGsに関わる学習として、「世界一大きな授業 2017」にも参加した。

一方、生徒会活動において、地域とつながるボランティア活動(プルタブ回収による車いす寄贈やペットボトルキャップ回収によるワクチン寄贈、東日本大震災・熊本地震被災地・九州北部豪雨被災地への募金活動等)や校区内小学校との交流活動(絵本読み聞かせや環境美化活動)、中高連携として、地域の高校との交流活動(花壇整備や生徒会スローガン掲示物の制作等)にも取り組んでいる。

このように、本校は、各学年で福祉・キャリアに関する学習に系統的に取り組んでおり、大牟田市の福祉の現状を知り、生徒自らが自分にできること、しなければならないこと等を考え報告し合い、今後、主体的に行動できる生徒の育成を目指している。このような取組は、将来、大牟田市の福祉を担う人材育成につながると考える。また、本校のESDの取組(学習成果)をホームページに掲載し、情報の発信・共有を図っている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

学 年	内 容	時 期	領域
1 年	○自然体験学習を核とした環境・エネルギーについての学習	6月	総合的な学習
	○地域の人に学ぶ(職業人による講話)	1月	
2 年	○地域の人に学ぶ(福祉関係等の事業所における職場体験学習)	6月	
	○世界遺産学習(京都の自主研修、「大牟田の宝」の広報活動)	11～2月	
3 年	○世界で一番大きな授業	5月	
	○地域の幼稚園・保育所等を訪問しての保育実習(幼児とのふれ合い体験)	6月	
	○「人が真ん中のまちづくり」～ひととまちの100年物語～	11～12月	
全学年	○校区美化活動・花壇整備(地域の高校生との交流)	通年	特別活動
生徒会活動他	○ボランティア活動(プルタブ・ペットボトルキャップ回収、募金活動) ○地域との交流活動(高校書道部との生徒会スローガン掲示物の制作における交流、吉野桜プロジェクトによる市制100周年植樹等)	通年	

3 特徴的な活動事例

< 3年：「人が真ん中のまちづくり～ひととまちの100年物語～」 >

目標	SDGsをふまえ、大牟田市のこれからの福祉(高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉等)の今後のあるべき姿について、地域の方々や関係機関等の思いや願い、体験活動、調査活動を通して、自分の考えをつくり多様な方法で発信し、実践することを通して、地域の福祉のまちづくりに参画したいという思いを持つことができる。
実際の展開の概略	<p>①市役所の担当者の話を聞いたり、パネルを見たりして、福祉の現状を知る。</p> <p>②認知症絵本学習、高齢者疑似体験学習、車いす体験学習等をふまえ、ユニバーサルデザインの視点に立つまちづくり、福祉のあり方についてプランをつくり交流する。</p> <p>③自分たちにできることを考え、発信し行動化する。(SDGs達成に向けた企業等のCSRに参加)</p> <p>・ペットボトルキャップ回収 ・空き缶プルタブ回収 ・電力会社・新聞社の活動</p> <p>・ふれあいボランティアサポート ・ユニセフ募金活動</p> <p>④これまでの活動を振り返り、成果と課題を共有し、プランの加筆・修正を行う。</p> <p>⑤「世界で一番大きな授業2017」へ参加し、社会福祉をめぐる状況について体験を踏まえ、多面的・多角的にとらえて考える。</p> <p>・保育体験学習 ・認知症SOS行動訓練 ・法教育授業 ・年金教室 ・税金教室</p> <p>⑥体験を振り返り、成果と課題を交流し、共有するとともに、他のユネスコスクールとの意見交流を行う。</p> <p>⑦キャッチコピーの設定について話し合い、国連ハビタットの方の話をうかがう。</p> <p>⑧学習した成果をふまえて、大牟田市社会福祉協議会へ行動宣言を提言する。</p>



[1年] 地熱発電所見学 [2年] 世界遺産学習 [3年] 保育体験学習 [3年] 人が真ん中のまちづくり

<生徒会活動における地域とつながる取組>

《ボランティア活動》

京都で英語で外国の人に大牟田を紹介!

- 「ペットボトルキャップで世界の子どもにワクチンを届けようキャンペーン」「Iサイクル活動」に賛同し、ペットボトルキャップを回収して坂西医院、聖マリア病院、イオンに送って、ポリオワクチン寄贈等に協力している。
- 空き缶のプルタブを回収して換金し、車椅子を購入して市内施設や病院等に寄贈する取組を14年前から行っている。また、募金期間を決めたり、地域イベントの際などに募金活動を行ったりしながら、熊本地震に義援金として、ユネスコスクールの宇城市立不知火中学校に送っている。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・各学年での学習内容や目標等の見直しを行い、発達段階をふまえた中学3年間の系統性や発展性を意識したカリキュラム編成に努め、教科や各領域等との関連を示した学年ごとのESDカレンダーを作成した。また、一部ストーリーマップを作成することができた。

○課題

- ・様々な体験活動等を核とした学習を計画・実施していく過程で、「体験ありき」ではなく、その先の行動化や発信を意識した実践に努めていくことができるように職員研修を深める。また、小学校と連携し、小中9年間を見通したESDの計画を立てる必要がある。